

「CO₂ネットゼロ実現と気候変動への適応 ～みらいを創る しがの農林水産業気候変動対策実行計画(第2期)～」骨子案について

1 趣旨

令和3年5月に国が「みどりの食料システム戦略」を策定し、2050年までの農林水産業分野における温室効果ガス削減を目標に掲げる中、本県においても「滋賀県 CO₂ ネットゼロ社会づくり推進計画」(令和4年3月策定、令和8年3月改定)に基づいて取組を進めている。

また、本県の農林水産業における気候変動対策として、令和4年3月に「CO₂ ネットゼロ実現と気候変動への適応 ～みらいを創る しがの農林水産業気候変動対策実行計画」を策定し、取組を進めてきた。

現計画が今年度で終期を迎えることに伴い、国の動向や新たな技術開発、これまでの県による様々な技術や施策の調査・研究を踏まえ、CO₂ ネットゼロの実現に向けて、気候変動への対策をさらに推進するため、第2期計画を策定する。

2 計画の位置付け

農業・水産業分野においては「滋賀県農業・水産業基本計画」に定める「目指す2035年の姿」の実現に向け、視点【環境・2】「地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む」、視点【環境・3】「自然災害などのリスクに対応する」における具体的施策の推進に向けた計画として位置付ける。

森林・林業分野については「琵琶湖森林づくり基本計画」に定める地球温暖化対策に関する具体的施策の推進に向けた計画として位置付ける。

3 計画期間

令和9年度(2027年度)から令和13年度(2031年度)まで(5年間)

4 計画改定のスケジュール

令和8年	10月8日	【議会】常任委員会(骨子案)
	12月中旬	【議会】常任委員会(計画素案)
令和9年	3月上旬	【議会】常任委員会(計画原案)
	3月末	実行計画策定、公表

CO₂ネットゼロ実現と気候変動への適応 ～みらいを創る しがの農林水産業気候変動対策実行計画(第2期)～骨子案

はじめに

<改定の趣旨> 現計画が今年度で終期を迎えることに伴い、国の動向や新たな技術開発、これまでの県による様々な技術や施策の調査・研究を踏まえ、CO₂ネットゼロの実現に向けて、気候変動への対策をさらに推進するため、第2期計画を策定する。

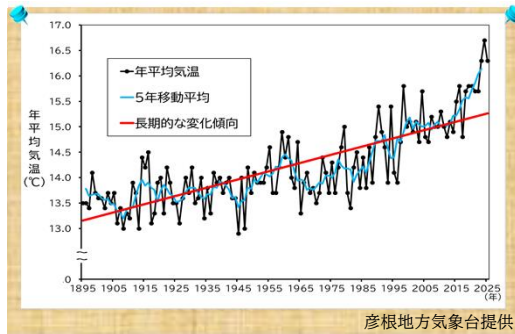
<計画の位置付け> 「滋賀県農業・水産業基本計画」の視点【環境・2】、【環境・3】、および「琵琶湖森林づくり基本計画」に定める、地球温暖化対策に関する具体的施策の推進に向けた計画として位置付ける。

<計画期間> 令和9年度(2027年度)～令和13年度(2031年度) [5年間]

第1章 現状と推進方針

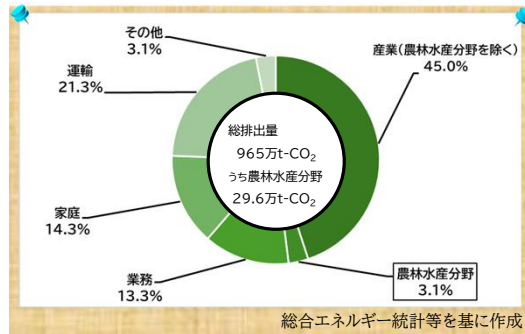
現状: 気温上昇と温室効果ガス排出の状況

- ・本県の年平均気温は100年間で約1.5℃上昇
- ・現計画策定時(令和3年)よりもさらに約0.1℃上昇



彦根地方気象台提供

- ・本県の令和5年度の温室効果ガス総排出量は965万t-CO₂であり、うち農林水産分野からの排出は3.1%
- ・平成30年度の同比率よりも0.6ポイント増加



総合エネルギー統計等を基に作成

これまでの本県の取組および計画の推進方針

緩和策

- ・温室効果ガス(メタン)発生量を約3割減少できる長期中干し※(14日間以上)の推進
- ・森林整備による森林吸収源対策や県産材利用

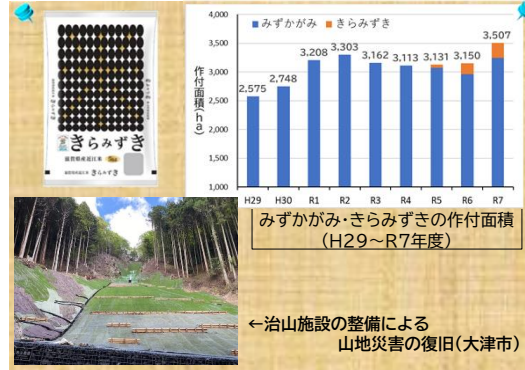


※ 中干し
過剰分けつ抑制や根への酸素供給のため、茎が十分な数に達した時点で水田の水を抜くこと。通常は7～10日間程度。

公共施設への県産材利用→「しがモック」

適応策

- ・高温下においても安定した品質を有する近江米「みずかがみ」「きらみずき」の面積拡大を推進
- ・治山施設の整備による山地災害の復旧等を推進



みずかがみ・きらみずきの作付面積(H29～R7年度)

← 治山施設の整備による山地災害の復旧(大津市)

- ・しかしながら、2050年CO₂ネットゼロを実現可能なものにするには、これまで成果を挙げてきた取組に加えて、さらなる新たな取組が必要である。

効果的な取組をさらに推進



新たな視点に立った取組と試験研究



2050年CO₂ネットゼロに向けた
滋賀県農林水産分野における貢献



第2章 温室効果ガス削減に向けた緩和策と気候変動の影響への適応策

総合的な対策			赤字文字は新たな取組
農産物輸送エネルギーの削減を図る取組の推進: 食の地産地消の推進			
農村地域における再生可能エネルギーの導入: 太陽光発電施設等を活用したエネルギー地産地消の推進(CO ₂ ネットゼロヴィレッジ)			
農 業 分 野	実証・普及	<緩和策>	オーガニック農業の普及推進、家畜ふん堆肥の利用促進、土づくりや緑肥の導入・取組拡大、長期中干し・秋耕の推進、エネルギー作物の普及推進、耕・畜・工連携による資源の地域内循環の推進
		<適応策>	高温耐性水稻品種(「みずかがみ」、「きらみずき」、「ことさんさん」、酒米「湖響」)の作付拡大、環境制御等のスマート農業の導入推進
	試験研究	<緩和・適応策>	大地を育む輪作農法※の普及拡大(※緑肥や地域資源(堆肥等)を活用する自然循環型の輪作体系。気候変動に適応でき、地球温暖化防止に寄与する)
		<緩和策>	脱炭素に貢献できるオーガニック農業技術体系の確立、農地からの温室効果ガス排出削減技術の開発
畜 産 分 野	実証・普及	<緩和策>	和牛・牛の生産拡大による肥育素牛の県内安定確保、耕畜連携による自給飼料生産の推進
		<適応策>	暑熱対策等の家畜の快適性向上に向けた飼養環境整備の推進
	試験研究	<緩和策>	水田の有効活用による自給飼料の生産拡大や地域の未利用資源の有効活用に向けた技術開発
		<適応策>	地球温暖化に対応した飼養管理技術の開発
水 産 分 野	実証・普及	<緩和策>	セタジミ資源の持続的管理手法の実証
		<適応策>	アコ産卵用人工河川の気候変動適応化技術の開発、造成コンテナ産卵場の水位変動に適応した機能保全対策
	試験研究	<緩和策>	効率的な漁具・漁法の研究・普及
		<適応策>	琵琶湖の漁場生産力の評価および回復に関する技術開発研究、気候変動に適応した特産マスの利用開発研究
森 林 分 野	実証・普及	<緩和策>	計画的な除間伐、伐代・再造林の推進とエリートツリー供給体制の構築、ICT等の活用による森林施業の効率化・省力化、木質バイオマスの有効利用によるCO ₂ 排出抑制、建築物等への県産材利用によるCO ₂ 固定
		<適応策>	治山施設の整備等による山地災害の復旧や未然防止、重要インフラ沿いの風倒木被害対策等の推進、森林病虫害防除と森林被害のモニタリングによる森林の保全・管理
	試験研究	<緩和・適応策>	持続可能な森林づくりに必要な森林資源情報の整備と活用に関する研究

第3章 2050年CO₂ネットゼロに向けて検討すべき内容

2050年CO₂ネットゼロを実現可能なものにするために、これまで成果を挙げてきた取組に加えて、次の3つの視点を踏まえた検討を継続して行うこととする。

- ① 緩和策×適応策
適応策をとることで同時に緩和策にも繋がる対策の検討
- ② 地産地消・地域内循環
農産物を地元で生産し地元で消費する地産地消に加え、生産にかかる資源やエネルギーの地域内流通および消費に関する対策の検討
- ③ 情報発信・制度
生産面の対策だけでなく、消費者の意識や行動変容を促す対策の検討

第4章 計画の目標と進行管理

- ・令和13年度(2031年度)を目標とする成果指標一覧
- ・進行管理

参考資料

- ・社会・環境を取り巻く情勢・気候変動による影響
- ・温室効果ガス排出量・温室効果ガス削減量算出基礎
- ・SDGsとの関連・用語解説